

PC オーディオのグレードアップ(2) —KORG DS-DA-10—

1. 始めに

前報(1)では PCM 再生の DD コンバーターと DA コンバーターを使用した事例を紹介しましたが、今回は KORG の DSD 対応の DA コンバーター DS-DA-10 を TASCAM DA-3000→MYTEK DIGITAL 192-DSD の SDIF 伝送の前ステージで使用してみました。

2. 試聴方法

DSD 対応の DA コンバーターとして KORG DS-DA-10 を使用し、次のルートでの再生を行ってみました。

PC→DS-DA-10→DA-3000→MYTEK DIGITAL 192-DSD

ここで DA-3000 には ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。

DS-DA10 は借用機であり、あらたにマニュアルに従ってドライバーを KORG の web site からダウンロードしてインストールします。

再生ソフトはすでにインストール済の AudioGate v.2.3.2 と AudioGate 3_0_1 を使用し、AudioGate の環境設定と DS-DA-10 の USB Audio Device Control Panel のところで、デバイスとして KORG の USB Audio Device(DS-DA-10) と ASIO の指定および DSD の出力とその rate の指定を行います。そうすると AudioGate の画面と USB Audio Device Control Panel の画面で、例えば、DSF, 5.6MHz の音源を再生し、DS-DA-10 に DSD の 5.6MHz で送り出しているという表示が確認できます。





なお、USB Audio Device Control Panel における Streaming Buffer Size の設定は推奨値の Safe に、ASIO Buffer Size の設定は推奨値の Maximum にしています。

3. 試聴結果

DS-DA-10 のアナログ出力を直接プリアンプに入力した場合と DA-3000 から MYTEK DIGITAL 192-DSD への SDIF 伝送経由の再生の比較では、直接入力の場合、DSD Native の特徴が出て、かなりのクオリティで DSD 音源を再生してくれますが、ところどころに、とりあえず DSD にしましたというレベルが見え隠れします。さらに後段の SDIF 伝送経由を加えると DSD としての自然さがより顕著になり、これなら長時間安心して聴けるという感じがします。

また、AudioGate v.2.3.2 と AudioGate3_0_1 では音がかなり違うことが分かりました。前者がエッジを強調したやや PCM 的な音が残っているのに対して、後者は滑らかで、より DSD らしい自然な音がします。従って、クラシックでは AudioGate3 を使用する SDIF 伝送経由が最も好みにあうものと言えます。

4. まとめ

KORG DS-DA-10 と AudioGate を使用した PC オーディオによる DSD Native 再生を行い、DA-3000 でさらに DSD 変換して MYTEK DIGITAL 192-DSD に DSD 伝送するという方法で PC オーディオのグレードを上げることが可能でした。いささか凝りすぎかなと思う方法でしたが、やったらやっただけの成果は見えたと思います。また、AudioGate3 が改良されていることの片鱗が見えたので、今月後半に予定されているフルバージョンのリリースが期待されます。

今後、DS-DA-10 以外に DSD 対応 DAC が入手あるいは借用できれば、引き続き同様の試みを実施したいと思います。

以上